

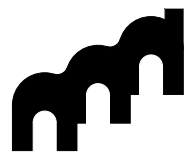
伊万里 — IMARI —



色絵更紗文皿
鍋島(1660~1680年代)
伊万里・鍋島ギャラリー所蔵

The Hizen
POTTERY&PORCELAIN
—ARITA×IMARI×TAKEO—

文化庁が認定する日本遺産である肥前窯業圏。そのエリアは佐賀県、長崎県にまたがりますが、中でも有田町、伊万里市、武雄市には、陶磁器における特有の結びつきがあり、それぞれ影響を与え合いながら独自の進化を遂げてきました。
今回は3市町におけるやきものの特徴と発展の歴史に触れつつ、今こそ出かけたくなるイベント情報を紹介します。この機会にやきもの探訪に出かけてみませんか。



— 3市町合同特集 —

個々に宿る美

日本遺産 肥前窯業圏
有田焼×伊万里焼×武雄焼



有田 — ARITA —

染付有田皿山職人尽し絵図大皿
(1820~1860年代)
有田陶磁美術館所蔵

武雄 — TAKEO —



鉄絵緑彩松樹文大皿
(1620~1640年代)
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵
中島宏コレクション

源流を共にするやきものたち

佐賀県と長崎県にまたがる肥前窯業圏のやきものは、1580年代の唐津市北波多地区で、朝鮮からの陶工が渡来したことにより始まった唐津焼が起源とされます。その後、朝鮮の役（1592年～1598年）でも多くの人々が連れ帰られ、伊万里、武雄、有田などでも陶器の製作が始まりました。

そして1616年に朝鮮陶工で有田焼の陶祖である李参平りさんぺいが有田にやって来て、その後有田の泉山で発見された陶石を使って磁器の製作を始めたことで、肥前陶磁器は重要な転機を迎えます。泉山で発見された良質で豊富な陶石は、短期間で有田の磁器産業を発展させ、当時世界的なブランドだった中国磁器にも劣らないほどの美しさと、品質を兼ね備えたやきものを生み出しました。そしてその頃、隣接する伊万里と武雄の一部地域だけが、有田と同じ泉山の良質な陶石を使った作陶が可能だったのです。

同じ原料を用いていた過去がありながら、その後はそれぞれ別の形で発展していった3つのやきもの。個々のやきものの特徴と歴史をひもときます。



有田焼



色絵 柘榴牡丹 彫刻 風俗 図 風 明 治 期
有田陶磁美術館所蔵

1616年、泉山磁石場はまだ発見されていなかった!?

1616年に陶祖李参平が、泉山磁石場で磁器の原料の陶石を発見したことで誕生したと思われる有田焼。実は、この年は李参平ら18人の陶工が、弟子や家族など数百人を引き連れて多久から有田に移った年で、当時陶器を生産していた小溝(現南原地区)の窯で、磁器も併せて焼き始めました。

ところが、磁器の原料が尽きてきたため、李参平らは方々を探し回り、1630年前後に泉山を発見。良質で豊富な原料の確保により、白川の天狗谷に窯を築いて、磁器だけの製造を試みました。磁器の大量生産に成功し、皿山繁栄の基礎を築いた功績により、李参平は陶祖として祭られているのです。

有田焼に

ビジネスチャンス到来

磁器生産の産業化のため、1637年には磁器だけに絞った生産が図られました。その頃世界の磁器市場をリードしていた中国が、明から清への王朝交代の混乱で輸出困難となり、有田磁器もその代替品の候補でした。しかし、当時の初期伊万里様式は形もデザインも中国とは程遠かったため、中国の景德鎮磁器を模した古九谷様式を完成させ、色絵の技術も確立。その後、藩は輸出の主力であった高級量産品の生産効率化のため内山に集約し、中・下級品や最高級品生産を外山に移します。最高級の技術で、後に南川原山で柿右衛門様式、大川内山(伊万里市)では鍋島様式が完成しました。

万国博覧会への出品

有田焼が再び脚光を浴びる

オランダ東インド会社による有田磁器の輸出は、古伊万里様式が作られていた1757年に公貿易が途絶えてしまいました。

しかし、1841年に久富与次(ひさとみよじ)兵衛がオランダ貿易を復活させ、以後生産側が海外の好みを直接知ることができるようになったのです。これにより、1867年のパリ万博やその後の各地の万博への出品が続く、伝統的な有田磁器の精巧な絵付けや細工は欧米でも高く評価されました。

一方で万博への出品を契機として、西洋の絵の具や製造機器など先進的な技術導入も積極的に図られ、有田焼のさらなる発展の原動力となったのです。



色絵花東文輪花鉢
(1670~1700年代)
有田陶磁美術館所蔵



有田山は
藩が政策的に
造った工業団地!?

そうだったのか

1637年に行われた窯場の整理・統合。有田・伊万里一帯の開拓を担っていた監督官の山本神右衛門重澄(やまもとじんえもんしげすみ)は、山林保護の名目で、有田の窯場の中から7カ所、伊万里の全窯場4カ所を廃止し、826人の陶工を追放します。そして、腕のいい朝鮮人陶工を中心に内山地区(泉山地区)・岩谷川内地区(周辺)の13の窯場に集め、磁器生産の産業化を主導しました。

泉山にも近く、人工的に新設した内山地区は、導線が単純で、人や物、情報の管理が容易だったことから、窯業の中心地に最適だったのです。

うちやま百貨店

伝統的建造物群が立ち並ぶ『内山地区』の空き店舗を活用し、有田焼の食器やアクセサリ、飲食物やワークショップなどが出店。この機会に内山地区を歩いてみては。

[日時] 11月23日(金・祝)~25日(日) 10:00~17:00
[場所] 内山地区のうち、上幸平地区・大樽地区の町屋
[問] ☎0955-25-9230 まちのオフィス春陽堂

オススメ!

有田町
有田代



伊万里焼

肥前陶磁器流通の

一大拠点『伊万里津』

有田を中心に作られた磁器は、伊万里津※1から積み出され、江戸や大坂をはじめとして全国に流通していきました。これらは、積み出し港の名前から『伊万里焼※2』と呼ばれ、国内の磁器市場のシェアの大部分を獲得します。

また、海外向けのものには長崎へ運ばれ、中国やオランダの商人を通じて東南アジアや中近東、ヨーロッパなどへ流通しました。現在もヨーロッパの宮殿や邸宅に当時の磁器が飾られており、世界中で珍重されていた様子をうかがい知ることができます。

※1 津とは港を意味します。

※2 現代の『伊万里焼』と区別するため、当時のものを今は『古伊万里』と呼んでいます。

伊万里の陶器商人の

マーケティング力は日の本一!?

当時の伊万里津は、伊万里川沿いに陶器商人の白壁土蔵が建ち並び、とてもにぎわっていました。今



↑旧犬塚家住宅
(市陶器商家資料館)

もその面影は旧犬塚家住宅(市陶器商家資料館)などに見ることができます。この発展の裏には、世界市場の動向を懸命に探った伊万里の陶器商人のたゆまぬ努力がありました。たとえば古伊万里の代表的な様式の一つで絶大な人気を誇る柿右衛門様式。この色絵の技法を中国の陶工から教わり、それを初代酒井田柿右衛門に伝えたのは、伊万里の陶器商人、東嶋徳左衛門だと言われています。

当時の伊万里の商人はいち早く世界を見据え、伊万里ブランドの定着に大きく貢献したのです。

最高峰の技術を

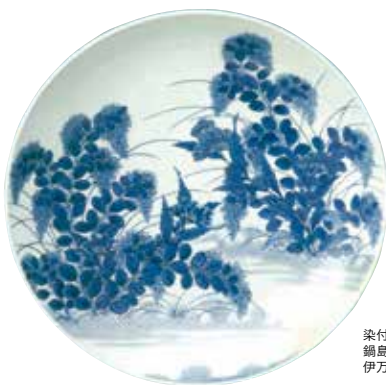
集結した鍋島焼

一般市場向けの伊万里焼(古伊万里)とは別に、將軍家への献上などを目的として作られ、日本磁器の最高峰とされる『鍋島焼』。これらを作るための佐賀藩直営の窯『藩窯』は、1660年頃に大川内

山に置かれました。有田から高い技術を持った陶工を選びすぐって集め、番所を設けて立ち入りを厳しく制限することでその技法が外部に漏れないようにしたのです。ここで生まれた数々の名品は人々を魅了し続け、その高度な技法は今も脈々と受け継がれています。当時の鍋島の様式美を受け継いだものから、新たな技術を取り入れて現代の生活感覚に合うように作られたものまで、多彩な製品が作り続けられています。



青磁色絵果樹文皿
鍋島(1700~1750年代)
伊万里・鍋島ギャラリー所蔵



染付秋草文皿
鍋島(1700~1730年代)
伊万里・鍋島ギャラリー所蔵

伊万里駅ビル

陶器商家の白壁と窯の煙突をモチーフにしたデザインの伊万里駅ビル。施設内には、伊万里焼を楽しめるスポットがたくさん。



【伊万里・鍋島ギャラリー】
古伊万里・鍋島の名品を数々展示
【伊万里観光協会物産店】
伊万里焼の各窯元の
商品を展示・販売
【伊万里百貨店】
伊万里焼の器で
楽しむコーヒーは
格別の味



オススメ!

伊万里市 金子

『伊万里焼』といえば、古伊万里や鍋島など磁器のイメージが強いですが、陶器とも深い関わりがあります。伊万里市内にある江戸時代の窯跡の約8割は陶器の窯跡です。その数は唐津市内よりも多く、南波多町や大川町、松浦町などに分布しています。そこで作られた陶器は唐津焼として全国に流通し、名品の代名詞として『一楽、二萩、三唐津』と言われるほどに。現在の伊万里市内でも、唐津焼の流れを受け継ぐ陶器の伊万里焼が作られています。

そうだったのか
伊万里焼

唐津焼の名品は
現在の伊万里市で
生まれた!

武雄焼

磁器と陶器

双方を発展させた武雄焼

1590年代に武雄領主が連れ帰った朝鮮陶工、深海宗伝ふかうみょうでんらによってもたらされた武雄焼は、武内町を中心に生産が始まります。有田の泉山の陶石を使用して製作されるやきものもあつたものの、原料の調達が難しかったことと、良質な土に恵まれたことで、徐々に土を原料とした陶器の生産が盛んになりました。当時の陶器は装飾を施すことが一般的ではありませんでしたが、武雄の陶器は白い化粧土や緑釉（緑色）や褐釉（茶色）を使用して装飾を施したデザインが斬新であると呼び、日本各地のみならず東南アジアにまで流通しました。そのデザインは現代アートにも通じ、今でも注目を集めています。



鉄絵緑彩松竹梅文大壺
(17世紀後半)
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵
中島宏コレクション

陶器の印象が強い武雄焼ですが、山内地区と川登地区では磁器の製作も行われていました。特に有田の泉山に近い山内地区の百間窯ひゃくまがまでは磁器が作られ、その多様な文様と種類は高く評価されています。現在でも市内には80軒近くの窯元があり、陶器と磁器の流れを汲むそれぞれの個性を生かしたやきものが生み出され続けています。

武雄の陶工が

有田焼にも影響を与えた!?

武雄にやきものの技術をもたらした深海宗伝は1618年に死去するまで、武内エリアで朝鮮の技法を伝え、武雄焼の主に陶器の技術の発展に尽力しました。

また窯跡からは初期の磁器片も出土しており、武雄でも磁器の製



染付鳥唐草文輪花大鉢
(1750~1770年代)
佐賀県立九州陶磁文化館所蔵

作に取り組んでいます。

しかし原料の問題から磁器が上手くできなかったため、宗伝の死後、その妻である百婆仙ひゃくばせんは一族を率いて有田へ移り住み、磁器の作陶を始めます。百婆仙の磁器への高い探求心は、有田焼の発展に大いに貢献したと言われます。

百婆仙の活躍は韓国ドラマの『火の女神ジョンイ』のモデルとしても描かれるほど、韓国でもその功績が認められています。

黒髪山陶芸村

山内町黒髪山の麓に連なる黒髪山陶芸村では、黒髪山を望む自然風景と陶器や磁器の個性的な窯元散策が楽しめる。11月22日(木)~25日(日)には窯元



共同開催の窯開きイベント『黒髪山陶芸村 秋の窯開き』が開催され、各窯元で通常より安く器が購入できる。

【日時】11月22日(木)~25日(日) 10:00~17:00

【場所】武雄市山内町大字宮野

【問】☎0954-45-4905 辻修窯

オススメ!



武雄市 中島



武雄焼

いわゆる『武雄焼』は存在しなかった!?

有田、伊万里と同様400年以上の歴史を持つ武雄焼ですが、実は『武雄焼』として人々に認識され始めたのは最近のことです。

佐賀県内でも有数の陶磁器産地であるにも関わらず武雄で作られたやきものは、陶器は唐津焼として、磁器は伊万里焼や有田焼として流通しており、その産地が人々に認識される機会すらありませんでした。

近年、武雄市内で作られる陶器や磁器を合わせて『武雄焼』とブランド化することで、徐々にやきものの産地としての認識が高まっています。

やきもの探訪にでかけよう!

それぞれの個性を持つ有田焼、伊万里焼、武雄焼を見に出かけてみませんか?11月はやきものイベントが盛りだくさん!年中やきもの見学ができるスポットも見逃せません。お気に入りの器を見つけてみましょう。

伊万里 — IMARI —



2018 鍋島藩窯秋まつり

大川内山にある31軒の窯元が参加。各窯元の秋の新作展示のほか、伊万里焼のおもてなし皿とお菓子をセットにした『鍋島スイーツ』の限定販売、5軒の窯元で買い物をした人に抽選で焼き物などが当たるスタンプラリーなどが実施される。心地良い秋風の中で窯元めぐりをしてみては。

【期間】11月1日(木)～5日(月) 【時間】8:30～17:00

【場所】伊万里市大川内町大川内山

【アクセス】伊万里駅から車で約15分

【問】☎0955-23-7293 伊万里鍋島焼協同組合



11/11(日)まで無料開館 伊万里・鍋島ギャラリー

全国でも珍しい焼き物専門のステーションミュージアム。市が所蔵する古伊万里・鍋島焼の中から鍋島焼の染付作品を中心に展示した『青い鍋島焼 鍋島染付の世界』展を11月11日(日)まで開催中。この機会に気品あふれる日本磁器の最高峰、鍋島焼を楽しんでみては。

【場所】伊万里・鍋島ギャラリー(伊万里市新天町622番地13 伊万里駅西ビル2階)

【開館時間】10:00～17:00

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日休館)、年末年始(12/29～1/3)

【入館料】300円(中学生以下、65歳以上無料) ※11/11(日)まではどなたも無料

【問】☎0955-22-2267 伊万里・鍋島ギャラリー

有田 — ARITA —



第14回 秋の有田陶磁器まつり

毎年、ゴールデンウィークに開催される『有田陶磁器』は100万人を超える人出でにぎわうことで有名だが、『秋の有田陶磁器まつり』はのんびり、ゆっくり有田の町を散策できる。今年の秋は、

『明治有田偉人博覧会』や『フランス人間国宝と有田』といった、知的好奇心をくすぐる催しも同時開催。

【期間】11月21日(水)～25日(日) 【場所】有田町内各所

【内容】焔の響演～薪窯めぐり～、泉山磁石場特別入場、ザ・レジェンドオープニングミニステージ、きもので秋のありたさんぽ、明治を感じる限定メニュー など

【問】☎0955-43-2121 有田観光協会 <https://www.arita.jp/>



有田陶磁美術館

佐賀県重要文化財の『染付有田皿山職人尽し絵図大皿(3ページ掲載)』をはじめ、各年代の有田焼や有田町と深い関わりのある中国・景德鎮やドイツ・マイセンのやきものも展示している。

明治維新150年を記念し、『お茶

を召しませ!-幕末・明治のカップ&ソーサー展-』(期間中無料)を11月25日(日)まで開催中。

【場所】有田陶磁美術館(有田町大樽1-4-2) 【開館時間】9:00～16:30

【休館日】月曜日、年末年始(12/29～1/3)

【入館料】大人100円、大学生・高校生50円、中学生・小学生30円

【問】☎0955-43-2678 有田町歴史民俗資料館

武雄 — TAKEO —



人間国宝 中島宏氏寄贈 『古武雄』展

陶器の中でも斬新な筆使いや釉薬で表現される独特の文様が施された古い武雄焼『古武雄』。武雄が誇る人間国宝 故中島宏氏が陶磁器の研究のため熱心に収集された古武雄の中でも選りすぐりの逸品を展示。武雄焼の原点をのぞきに出かけてみては。

【期間】11月25日(日)まで 【開館時間】9:00～17:00

【場所】佐賀県立九州陶磁文化館 【休館日】月曜日

【観覧料】大人600円・大学生300円・高校生以下無料(※団体100円割引)

【問】☎0955-43-3681 佐賀県立九州陶磁文化館



竹古場キルンの森公園 飛龍窯

武内町黒牟田地区に、陶芸の里武雄の拠点として作られた世界一の容積を誇る登り窯『飛龍窯』。全長23mで、一度に約12万個の湯飲みを焼成することができる。工房では市内の窯元の作品の展示販売や陶芸体験を行っている。毎年2月には約6000本の灯ろうで彩る灯ろう祭りが好評。

【場所】竹古場キルンの森公園 飛龍窯(武雄市武内町大字真手野24001-1)

【営業時間】9:00～17:00 【休業日】火曜日、年末年始(12/28～1/3)

【アクセス】武雄温泉駅から車で約20分

【問】☎0954-27-3383 飛龍窯

お待ちしております!

同じようで違う伊万里焼と有田焼。また、陶器のイメージが強い武雄焼も、互いに切磋琢磨しながら発展し、私たちの暮らしの中に浸透してきました。今回は歴史的な面を中心に紹介しましたが、他にも、知らない魅力がたくさんあるはずです。この特集を読んであなたがやきものに興味を持ち、伊万里・有田・武雄に出かけるきっかけとなりますように。

